

人生を拓いてくれた「珠玉の言葉」1980年

1980.1.3 朝日新聞より

- ・ 30 までは何でもできると思っている。ところが 30 すぎると自分に可能なことが、地図のようにはっきり見えてくるんです。(小澤征滋)
- ・ 20 の私には、やはりすべてが可能だという幻想があった。(沢木太郎)

想うこと(1980年記)

- ・ 仕事に俺の人生をかけたくない
- ・ 仕事なんて食う為の道具だ、手段だ
- ・ 進歩進歩と言っている間に、ひどい地球に、ひどい人間ばかりになってしまった
- ・ 人生に目的があるなら、それは子供達へ素晴らしい未来を残すことばかり
- ・ 進歩より現状維持を、現状維持より後退を。
- ・ 物ばかり豊富にして、何故頭をからっぽにってしまったのだ
- ・ 物と精神は反比例するのか？
- ・ 便利とは怠惰の代名詞
- ・ 俺は動く、動いて動いて。走らずに歩こう

1980.1.9

- ・ 素直に生きる
- ・ 人が人を傷つける事は悪い。傷つけないことは良いことだ。

孟子より

- ・ 仁者に敵なし
- ・ 力と徳との対照は、服従関係からするなら、実は強制と自由意思との対照とみてよい。民衆の自由意思にもとづく服従こそが世界を安定する根本だという思想は、すこぶる進歩的である。
- ・ 民と偕(とも)に楽しむ

君子には三つの楽しみがある。天下の王者になることはそれにはふくまれない。両親がそろって健在で兄弟に事故のないのは、第一の楽しみである。仰いで天に恥じず、伏して人に恥じないのは、第二の楽しみである。天下の英才を得て教育するのは、第三の楽しみである。君子には三つの楽しみがあるが、天下の王者になることはそれにはふくまれない

1980.1.14 朝日新聞 天声人語より

- ・ 青春とは常に現実の中に奇跡を追い求めることだ（坂口安吾）
- ・ あすは桧になろう、あすは桧になろうと一生けん命考えている木よ。でも永久に桧になれないんだって。それで翌桧というのよ。（井上靖 あすなる物語より）

海聴研No5より 勝也光信

- ・ 文学者と障害者は似ているように思われます。両方とも社会のアウトサイダーであり、食べていけないということは同じであり、道徳、現実社会を否定するという精神的には似かよった所があります。
- ・ 障害者が文学に登場するのは大変多い
- ・ 日本では、家庭で大事にされていたため、社会的に障害者問題として運動が遅れていたのは確かだと思います。
- ・ ヨーロッパは中世における「魔女狩り」とか、キリスト教が発展し、障害者を魔女とか、精神分裂者を悪魔とか社会の真中に出し、ある意味では社会的関心があるということで、日本と比較すると非常におもしろいと思います。

障害者も人間なのだという思想

- ・ 障害を持ったことをありのままに肯定する
- ・ 仏教 因果
キリスト 信仰の証明
- ・ 障害者にとって、自我にめざめ自己の存在を肯定することから、すべて始まるのです。
- ・ 口話法の採用は、ろう者がろう者として生きる事が否定された黒の時代の始まりである・・・。
- ・ 第1段階 障害者は人間ではない
第2段階 //
- 第3段階 健全者社会への参加・・・正常化
第4段階 お互いを尊重しあい
- ・ 米国は第4段階の完成期、日本は第3段階の衰退期
- ・ ハイという返事にも、承認・敬意・反抗・軽蔑・・・色々なニュアンスがある。